

2025年度 いちじく病害虫防除暦 露地

農薬取締法では、農薬使用者の責務や、遵守義務規定、努力規定が定められています。ルールを守って正しく使用しましょう。 JA 氷見市 いきいき直売の会 果樹部会

回数	散布時期 (生育ステージ)	主な対象病害虫	薬 剤 名	散布濃度	10a 当 たり散 布量 (リッ ル)	収穫前日数/ 使用回数	水 100L 当たり 薬量	使 用 上 の 注 意 点	散布日
1	3月下旬～4月上旬	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	7倍	200	発芽前/ー	14L	・風のない日に丁寧に散布する。	月 日
2	4月(発芽前)	カミキリムシ類	ガットサイドS	原液塗布	ー	7日前/3回	ー	・カミキリムシ類発生園はガットサイドSを4月中に原液を株元～結果母枝まで塗布する。	月 日
臨時	4月(発芽前)	カミキリムシ類	ロビンフッド	樹皮・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。	ー	前日/5回	ー	・クワカミキリの幼虫が、木くず、虫ふんを出すので食入孔からロビンフッドを噴霧し殺虫する。 ・食害部を見つけ針金等で刺殺する。	月 日
3	5～10月	株枯病	トップジンM水和剤 又は オンリーワン フロアブル	500倍 2,000倍	ー	前日/6回★ 前日/3回	ー	株枯病の発生が懸念される場合、 ・トップジンM水和剤は、株当たり1～10Lを株元に灌注する。★下記注意事項 ・オンリーワンフロアブルは、株当たり5～10Lを株元に灌注する。	月 日
4	6月上旬 (着果始期)	疫 病	Zボルドー クレフノン	1,000倍 200倍	200	ー/ー ー/ー	100g 500g	・銅剤による薬害防止のため、クレフノンを加用する。 これ以降銅剤を使用する場合は必ずクレフノンを加用すること。 ・疫病の感染初期なので、前年多発園地や多雨年には特に注意する。 ・土壌から病原菌の跳ね返りを防ぐため、敷ワラ、マルチをする。	月 日
5	6月20日頃	アザミウマ類 疫 病	スカウトフロアブル Zボルドー クレフノン	2,000倍 1,000倍 200倍	200	前日/3回 ー/ー ー/ー	50ml 100g 500g	・1～2段目の果実の目がわずかに開く頃(果実の横径20～25mmの頃)が散布の目安。 ・疫病の発生果実はほ場内に放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。	月 日
6	7月上旬	アザミウマ類 疫 病	モスピラン顆粒水溶剤 ランマンフロアブル	2,000倍 2,000倍	200	前日/3回 前日/3回	50g 50ml	・反射マルチ(シルバーシート)を樹冠下に設置することにより、アザミウマ類による被害軽減効果がある。 ・6月中旬から7月下旬にかけて、キボシカミキリ及びクワカミキリの成虫が発生するので、見つけ次第捕殺する。 ・多雨が病気発生を助長するので、薬剤散布の間隔を詰め、排水対策を徹底する。	月 日
臨時	7月中～下旬	カミキリムシ類	ガットサイドS	原液塗布	ー	7日前/3回	ー	・薬液が新梢、葉に付着すると薬害を生じるおそれがあるので、樹幹のみに塗布する。 ・株枯病を確認したら、根部まで掘り下げ抜き取りを行う。	月 日

7	7月中旬	アザミウマ類 疫病	スピノエース顆粒水和剤 ライメイフロアブル	5,000倍 3,000倍	200	前日/1回 前日/3回	20g 33ml		月 日
臨時	7月～9月	クワカミキリ	園芸用キンチョールE ※総使用回数2回のため注意!	食入部にノズルを差し込み、 薬剤が食入部から逆流するま で噴射する。		前日/2回	—	・クワカミキリの幼虫が、木くず、虫ふんを出すので食入孔から園芸用キンチョールEを噴霧し殺虫する。 ・木くず・虫ふんを目安に小刀等で削り幼虫を捕殺する。	月 日
8	8月上旬	アザミウマ類 黒かび病	スカウトフロアブル トップジンM水和剤	2,000倍 1,000倍	200	前日/3回 7日前/5回	50ml 100g	・収穫期が近づくため、収穫前日数に注意し使用基準を遵守する。	月 日
9	8月下旬	アザミウマ類・キボシ カミキリ 疫病	モスピラン顆粒水溶剤 ランマンフロアブル	2,000倍 2,000倍	200	前日/3回 前日/3回	50g 50ml	・9月は、キボシカミキリの発生期に当たるので、多発園ではモスピラン水溶剤2,000倍(前日/3回)を散布する。	月 日

※散布時期は目安です。生育及び病害虫の発生状況を判断し、適期防除に努めましょう。

※農薬を使用する前にラベルに記載された使用上の注意事項をよく読み、その内容を必ず守ること。(農薬取締法により使用者責任が問われます。)

※散布圃場の周囲へのドリフト(飛散)に注意しましょう。(可能性がある場合は必要な措置を講じるよう努めること)

※園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。散布作業には、マスク、手袋等安全防除衣を着用しましょう。

※疫病多発時には、罹病果実をすべて圃場外に搬出した後に殺菌剤を散布する。その後も圃場を見回り罹病果実は必ず搬出し、菌密度を下げる。

※腐敗果実は、果実腐敗の二次伝染源及びショウジョウバエ類の発生源となるので、ほ場外へ持ち出して処分する。

※ショウジョウバエは、酵母腐敗病の原因となるので、ほ場周囲にショウジョウバエの発生原因となるもの(野菜くずなど)を放置しない。

★トップジンM水和剤の使用回数は、灌注6回以内、散布は5回以内である。成分にチオファネートメチルを含む農薬の使用回数は、14回以内(塗布3回以内、灌注6回以内、散布5回以内)である。

【除草剤使用欄】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用時期	散布量 10a
ザクサ液剤	収穫前日まで	3回以内	/ / /	L
ラウンドアップマックスロード*	収穫7日前	3回以内	/ / /	L